

たかのす

人口と世帯数

(住民基本台帳による)

7月31日現在	(前月比)
総人口 25,487人	(7人増)
男 12,479人	(6人増)
女 13,008人	(1人増)
世帯数 7,063世帯	(4世帯増)

編集と発行 鷹巣町役場総務課広報係



No. 415

54・9・1

社会人としての新しいスタート

社会人への“門出”を祝うとともに、おとなになったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます町の「成人式」が、終戦記念日の8月15日鷹巣公民館ホールで晴れやかに開催され、あらたに414人がおとなとしての旅立ちをしました。(関連記事2～5ページに)

祝 新 成 人



新しい門出祝う

414人が大人の仲間入り—8月15日

ことしで三十一回目を迎えた「成人式」は、八月十五日午前十時から鷹巣公民館ホールで開催され、昭和三十三年四月二日から三十四年四月一日までの出生者、男二百二人、女二百十二人、計四百四十四人があらたなおとなの仲間入りをしました。

当日は猛暑にもかかわらず、式典には、男百五十五人、女百九十九人、計三百四十四人が、ノーネクタイやワンピース姿の軽装で出席。ひさびさに里帰りした成人者も多いことから、何年ぶりの顔合せに感慨をあらたに話もは んでいました。

式典では、出川禮一町長の式辞に続いて、町からの記念品を堀部正男君（葛黒）と堀内恵子さん（綴子）が代表して受けたあと、沢田一義町議会議長、成田純次県議会議員が祝辞を述べました。

は
た
ち

カ
メ
ラ
・
メ
モ

は
た
ち



このあと成人を代表して山形麻公子さん（西旭町）から、「社会人として鋭意努力したい」と、誓いのことが述べられ式典を終わりました。

式典後は記念行事が行われ、成人記念作文応募者のなかから畠山美智子さん（黒森）松橋良子さん（南鷹巣）岩本ひとみさん（岩脇—東京）の三人が、これまでの生活体験を通し、さらに成人として自覚にめざめ頑張りたいと決意が述べられ、深い感銘を与えていました。

このあと記念写真の撮影があり、午後からは成人者の記念祝賀実行委員会（堀内直光委員長）が主体となり、カラオケ大会やゲームなど、午後三時まで汗をほとばしりさせながら、はたちの夏のひとときを楽しんでいました。

図5 団体やサークルに加入していますか

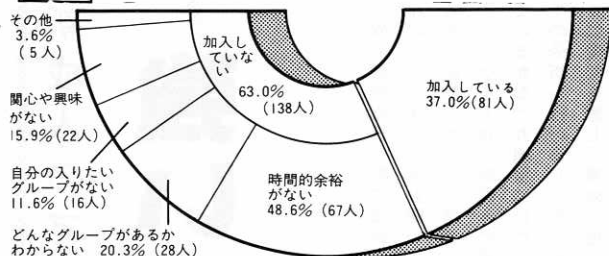
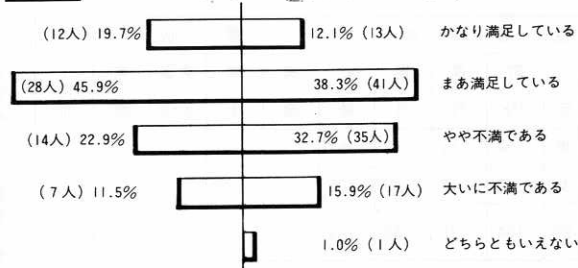


図4 現在の仕事に満足していますか



仕事の満足度 図4

まあ満足しているが四十一・一％でトップ、かなり満足している十四・九％を加えると、五十六％が職場にしっかりと根をおろしているようだ。

やや不満であるの二十九・一％は、職場人となって日の浅い若者の動揺や、人間関係にあるのではない。

大いに不満であるが女に多いのは、職務の内容や不安定な立場などに起因するものと思う。

サークル 図5

団体やサークルに加入している人は三十七％。

加入していない百三十八人の内、四十八・六％が時間的余裕がないと答えている。忙中閑ありで、もう少し時間の工夫ができないものか。

どんなグループがあるかわからない、自分の入りたいグループがないと答えた三十一・九％は、今後の動機づけや啓もう活動などによって十分期待できる人たちではないか。新成人のグループ結成なども大いに期待したい。

生きがい 図6

生きがいは、男女ともに友人や仲間といふことがトップで、全体の四十三・八％。昨年を七％も上まわっている。人との出会い、触れあいは貴重な経験、大いに発展

させたいものだ。

次いで、趣味に打ち込むときが、昨年までの仕事や勉強を追い抜き、二十三％となっている。心のゆとりを求めている現象だろうか。

社会奉仕をしているときと答えた人が女五人だけとは、この時代に淋しい思いだ。改めてボランティアのむずかしさを知らされた。

生涯学習 図7

生涯学習の必要性については、仕事やくらしに必要な知識、技能を高めるためと答えた人が全体の四十三・九％で、女の割合が高い。反面、男は社会の進歩や変化におくれないようにするためが高くなっている。男は社会学習、女は生活技術学習の傾向が伺える。

働くほかに生きがいをもちたものの二十三・七％を加えると、九十四％の人が生涯学習を一応は認めているようだ。

将来の生活 図8

なごやかで平和な家庭をもつ生活と答えたのが四十二・五％で、男女ともに群を抜いている。マイホームの気風が、ここ数年のアンケートでは定着化している。

次いで、地道に努力しながら、まじめにやっていく生活十四・二％、自分の店や事務所をもつ生活十一・四％の順に、堅実派が続いている。

反面、一割足らずではあるが、自分の能力で挑戦したい、組織から脱け出し自由に生きたい、大

き冒険に賭けたいなどと、若者らしい発言もでている。

将来町に帰るか 図9

現在町外に住んでいる百十五人の内、三十四人が働き場があれど帰ってきたいと答え、はっきりと帰って来ると意志表示した三十二人と合すると六十六人となり、全体の五十七・四％が帰町を望んでいることになる。

また、いまはなんともいえないと答えた四十人を含め、今後、行政の手だてに負うところが多く、地方の時代に応わしい新たな町づくり構想が検討されねばならないと思う。

まとめ

ことしの成人像を、アンケートの数字からだけ描いてみると、成人たちはわが郷土に深い関心を寄せ、町外にいる大多数も将来町へ帰りたいと望んでいるようだ。

生きがいを友人や仲間との交流におき、仕事やくらしを高める学習にも、目を向けようとしている。そして、この人たちの将来は、なごやかで、おだやかな家庭、まじめな生活という堅実にして、マイホームを志向していることになる。

青年よ大志を抱けの時代からは遠くなってきたのだから、なにかバイタリティーに欠け、夢に乏しい感もなきにしもあらずだが、ともあれ、創意と活力に満ちた新しい世代の実現に、まい進してもらいたいものだ。

図7 生涯学習が大切だとすればその理由

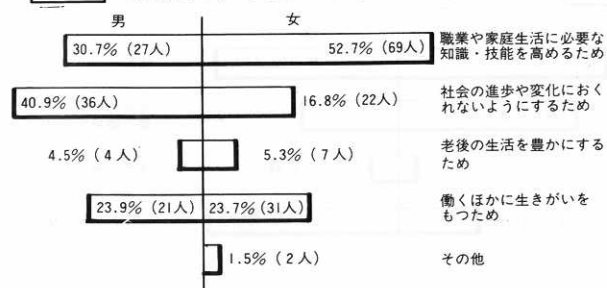
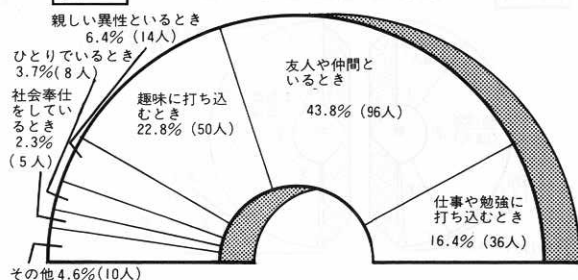


図6 どんなときに生きがいを感じますか





私たちの日常生活の基本法である民法は「満二十年をもって成人とする」(第三条)と規定しています。つまり、この日から一人前の「おとな」として選挙権も行使でき、酒、タバコも嗜れて「解禁」ということになります。

ところで、成人を祝うしきたりは古くからあり、男は「元服」あるいは「禪祝い」など、女は「裳着」とか「髪あげ」などが行われていました。

後で成人として若者組への参加が認められるならわしがあつたようです。そして、集落の共同作業に

中世からあった 「成人式」

女子は男子より早く十三歳が「成女式」とされ、娘組への加入が許されました。

ところで一人前の人間として認められた彼らの仕事の量は、どのくらいだったのでしょうか。

農村では、男一人一日の仕事は田一反(約一千平方メートル)を耕すこと、女子はその七、八分が標準とされてきました。そしてこの仕事量は、各家や集落で実質的な労働力として期待されていたのです。いまから考えますと、大変な働き者だったといえるかも知れません。

図8 将来、鷹巣町に帰ってきますか

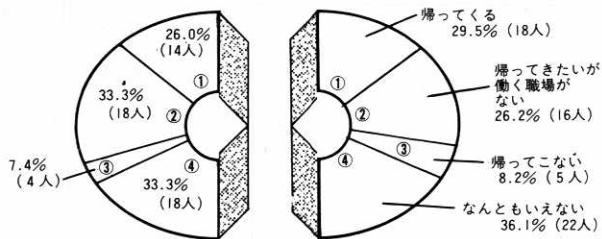
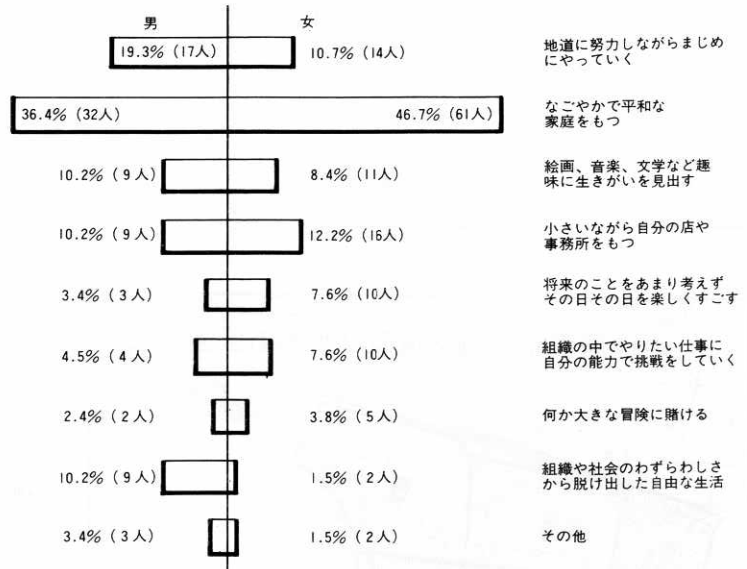


図9 将来、どんな生活をしたいと思っていますか



選挙権

「一票の重み」を大切に

日本国民で年齢が満二十歳以上など、諸要件を満たした人に与えら

成人になったことの象徴ともいえる権利の一つに、選挙権があります。私たちは、選挙権を行使することによって、国政をはじめ県や町の地方自治に参加する機会を得るのです。

選挙権は、日本国民で年齢が満二十歳以上など、諸要件を満たした人に与えら

れませんが、実際に選挙権を行使するためには、町の選挙管理委員会が作成している選挙人名簿に登録される必要があります。

選挙人名簿の登録は、毎年一回、九月に定時登録が行われますが、そのほか、選挙が行われるときには、そのつど登録できます。

登録は町の選挙管理委員会が行いますが、選挙人名簿は一定期間、公開されます。万一、登録もれの場合は、補正登録をすることもできます。とくに、住所が変わったときなどは、確認をして、貴重な選挙権がムダにならないよう心がけたいものです。



住居表示、審議会から答申出る

『明年三月一日実施めどに作業急ぐ』

昨年の十一月七日に、町長から住居表示審議会（沢田一義会長・委員二十名）に諮問していた住居表示整備事業についての答申が、去る八月二十七日に出されたことから、町では具体的作業を急ぎ、九月と十二月の町議会に関係議案の議決を求めながら、明年三月一日をめどに実施したい——としております。

区域、町割りは諮問どおり答申

町長から審議会に諮問していた住居表示の区域は、旧町内百二十二万八千三百八十平方メートル、七世帯。この地域には、現在、西塚宿、北家後、東鷹巣、北鷹巣といった字区名が十八、また米代町、北新町、西仲通りなどの通称名は二十八ありますが、これを統廃合し、別表のとおり十一の町割りとし、町名も第一案が都市計画前後の町名を考慮、第二案では字名を考慮したもので、諮問していたものです。

番号	諮問町名		答申町名
	第1案	第2案	
1	三吉町	太平町	もと町
2	仲町	屋敷町	おお町
3	西横町	寺吉町	にし横町
4	住吉町	住吉町	まつ新町
5	松葉町	松葉町	まつ葉町
6	末広町	材木町	さい材町
7	花園町	花園町	ことき町
8	東横町	横八町	ひがし町
9	八幡町	八幡町	みや町
10	旭町	旭町	あさ町
11	伊勢町	伊勢町	あさ勢町

この実施区域、町割り、町名の諮問に対し、審議会では住居表示実施基準の趣旨と町の歴史的な発展の経緯、将来の展望等を見極めながら、七回におよぶ慎重審議を重ねて答申したものです。

答申によると、実施区域、町割りおよび街区割りについては諮問の区域、町割り、町名の決定は、審議会に一部街区住民から請願が出たため、同会では、諮問案と関係街区住民から出された案とを同列に置いて審議をすすめる。一、二、三、八、九、十、十一の七街区については話し合いで町名を決定したもの、四五、六、七の四街区の町名については話し合いがつかず、結局、審議会では八月六日、出席委員十五名の無記名投票により町名を決定

案のとおりとしながらも、町名については、五街区でまったく新しい町名で答申しております。

五街区で新町名

町では、八月二十七日に答申を得たことから、明年三月一日実施をめどに次のような計画で作業をすすめることにしておりますので、関係住民のご協力をお願いいたします。

基本図作成に入る

住居表示整備事業実施によると、九月中旬に街区割の基本図を作成、十一月まで家屋等の現地調査と住民登録との照合、十二月に街区符号と住居番号の決定、一月に新旧対照図の作成と住居表示台帳の作成、二月には関係者および行政機関に対する通知と町名、街区符号および番号板を取り付けを終り、三月一日が実施ということにしております。

なおこの間、九月と十二月に町議会の議決、十一月には区域、町名の公示、二月は街区符号、住宅番号の告示、県知事、自治大臣に対する報告などがなされなければならぬことになっております。

住居表示の問い合わせは

建設課計画係へ

住居表示についての事務は、建設課計画係（電話二一一一―内線二六九）で担当しております。住居表示について、わからない点や疑問な点がありましたら、計画係にご連絡ください。くわしく説明いたします。





＝身代人形で衝突実験＝

事故の恐しさ 膚で認識

鷹巣警察署では、交通事故防止作戦の一つとして、八月六日午後二時から役場前路上で、タミー人形（身代人形）を使って車と衝突実験を行いました。見守っていた老人クラブ員などおよそ三百人の町民は、車にはね飛ばされ、ぐったり横たわる人形をみて一瞬重苦しい空気に包まれました。

衝突実験は、路上にセッティングされたタミー人形に四十キロのスピードで乗用車が突っ込むもので、衝突の瞬間、人形ははね飛ばされ、首の骨折や全身打撲で即死の状態。生々しい交通事故の再現は、見守っていた人たちに交通事故の恐しさを認識させるに十分の成果をあげました。警察ではこのあと、学校や団体などでも行い交通事故の撲滅を図ることにしています。

『笹川会長ら来賓招き』

全県消防大会開く

第三十二回全県消防大会が、八月九日午後一時から鷹巣体育館に消防関係者五百人が参加して盛大に開かれました。

大会には、笹川良一日本消防協会長、出口広光副知事、佐藤敬治、佐々木満の両国會議員ら来賓が出席。最初に中田初雄県消防協会長、村上儀八郎町消防団長のあいさつに続いて議題の審議に入り▽夜間無人化の防災対象物に対する規制の明確化▽消防職団員自身を防

護するため使用する着装用品の審査と表示▽消防団員服制の改制▽非常勤消防団員公務災害補償基礎額の全額支給および増額▽知事有効章の市町村に対する枠の拡大▽県内に防災センターの建設など、国・県に対する要望事項を決めました。

このあと、大会宣言と決議を採択。出川町長ら来賓の祝辞などがあつて大会を終えました。



第32回秋田県消防大会

ドライバーのみなさんへ

サイレンを聞いたなら

道をゆずろう

火事といえば消防車、急病人は救急車、事件発生ときはパトカー……いざというとき、最も頼りになるのが、これらのいわゆる「緊急自動車」です。

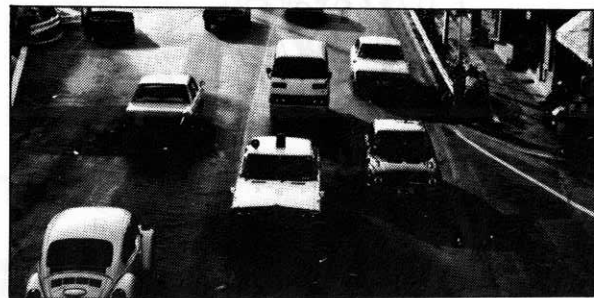
五十分になると二六・七％に落ちているのです。ところが、残念なことに、最近交通事情がよくない上に、狭い道路上の違法駐車などのため、緊急自動車か思うように走れないことが多くなっています。

一分一秒を争って目的地にかけつけ、火を消し、人命を救い、事件を解決するわたしたち

その上、サイレンの音を聞いていながら道をゆずらなかつたり、無謀な運転で緊急自動車と事故を起こすケースが増えてきています。

緊急自動車の現場到着が遅れると、それだけ被害が大きくなり、人命は危険にさらされ、事件の解決に支障をきたします。

ドライバーのみなさん、サイレンを鳴らして走る車の行き先には、到着をいまいかと首を長くして待ちこがれている人がいるのです。出動中の緊急自動車の通行に、一層のご協力をお願いいたします。



パトカーの例で見ますと、一〇番の通報を受けて、三分以内に現場に到着した場合の検挙率は三〇・二％ですが、これが

を長くして待ちこがれている人がいるのです。出動中の緊急自動車の通行に、一層のご協力をお願いいたします。

町職員資格試験

〔上級職員〕

町職員採用資格試験を行います。受験希望者は、秋田県町村職員（上級・初級）採用統一試験要領により、受験申し込みください。

1. 採用予定人員 一般行政事務職員 若干名
2. 受験資格
 - (1)学校教育法による大学を昭和52年3月以降に卒業した者又は昭和55年3月31日までに卒業見込みの者
 - (2)学校教育法による短期大学及び高等専門学校を昭和52年3月以前に卒業した者で、昭和25年4月2日以降に生まれた者
 - (3)昭和25年4月2日から昭和31年4月1日までに生まれた者
3. 試験日（一次） 10月7日（日） 二次試験は一次試験合格者について通知します。
4. 試験場 秋田県自治会館（県庁うら）
5. 申込受付 9月10日（月）から9月20日（木）まで
「勤務時間内」に役場総務課庶務係（二階）に申し込みください。

〔初級職員〕

1. 採用予定人員 一般行政事務職員 若干名
2. 受験資格 昭和29年4月2日から昭和37年4月1日までに生まれた者
ただし、学校教育法による大学（短期大学を除く。）を卒業した者又は昭和55年3月31日までに卒業見込みの者は受験できません。
3. 試験日（一次） 11月4日（日） 二次試験は一次試験合格者について通知します。
4. 試験場 秋田県立秋田工業高等学校（秋田市保戸野金砂町）
5. 申込受付 10月1日（月）から10月13日（土）までの「勤務時間内」に役場総務課庶務係（二階）に申し込みください。

※ 受験申込用紙及びくわしくは役場総務課庶務係に問い合わせください。
（電話2-1111）

9月1日
防災の日

地震からあなたを守る

「ふだんの備えと心構え」

「地震・雷・火事・おやじ」
ある日、突然、何の予告もなくしに襲ってくる地震の恐しさは昔も



地震のときはあなたの上の物も危険

今も変わりありません。
わたしたちは、地震の発生そのものを防ぐことはできませんが、被害を最小限にいくとめることができます。そのためには地震に対する正しい知識を持って、日ごろから、いざというときの物心両面での準備を怠らないようにすることが大切です。
九月一日は「防災の日」です。この機会に、あなた自身の防災対策を「再点検」してみましよう。

青色申告のおすすめ

毎日の取引を帳簿につけ、その帳簿に基づいて正確に所得や税額の申告をする人には、所得計算の面でいろいろ有利な取扱いが受けられる青色申告制度があります。その主なものは、①所得金額から一律に十万円を控除できる「青色申告控除」②事業に従事している奥さんや子供さんに支払った給与が必要経費になる「青色専従者給与」③貸倒引当金や価格変動準備金などの引当金や準備金が必要経費になるほどの特典があります。

青色申告のできる人は、不動産所得、事業所得、山林所得のある人ですが、青色申告をするためには、青色申告をしようとする年の三月十五日まで「青色申告承認申請書」を税務署に提出しなければなりません。
青色申告の帳簿は、現金出納帳などの簡単な帳簿でもよいことになっています。
帳簿のつけ方や決算のしかたなどで分からないときは、税務署にご相談ください。また、青色申告会や商工会などでも記帳の指導をしています。



税の窓

町長日誌

8月1日～8月15日

1日 子ども会キャンプ村

2日 小ヶ田駅全乗客列車停車

3日 陳情Ⅱ秋田鉄道管理局

4日 五城目町との交歓スポーツ大会

5日 交通対策特別委員会

6日 老人の交通安全教室

7日 秋田県市町村公立学校施設整備期成会役員会

8日 森吉町外四カ町村衛生施設組合協議会

9日 全県消防大会

10日 北秋田道路利用者会議

11日 栄農協納税組合総会

12日 建設水道常任委員会

13日 子ども会相撲大会

14日 八郎湯町との交歓テニス大会

15日 鷹巣阿仁青年の祭り成人式

議会日誌

8月1日～8月15日

2日 交通対策特別委員会

3日 小ヶ田駅全乗客列車停車

4日 陳情Ⅱ秋田鉄道管理局

5日 交通対策特別委員会

6日 建設水道常任委員会

7・11日 建設水道常任委員会

特別・児童扶養手当の受給者へ

定時届を、九月十日までに町民課福祉係へ提出してください。

団体優勝
舟場チーム



子ども会相撲大会

舟場が4連勝飾る

個人は中島君(二年) 藤島君(三年)

スポーティコーナ

第十二回全町子ども会相撲大会は、八月十二日午前九時から鷹巣体育館特設土俵で行われ、団体は舟場チームが四年連続優勝。個人では二年の部で中島伸行君(舟場)、三年の部は藤島洋悦君(太田)がそれぞれ優勝、観衆から盛んな拍手がおくられました。

大会には、団体戦に八十七チーム(一チーム三人)、個人戦には二年の部に八十四人、三年の部に八十三人と、これまでの最高を記録。土俵も、今大会からふたつに増やしましたが、それでも試合は六時間にわたる熱戦を展開。応援にかけつけたおよそ一千五百人の観衆から、一番一番に歓声と声援がおくられていました。

試合は、団体戦が予戦二回戦を行い上位三十二チームで決勝トーナメント。個人戦は、二、三年生ともオールトーナメントで行われましたが、それぞれ早くから練習をつんできたため、好勝負の連続。

二年の部優勝
中島伸行君



三年の部優勝
藤島洋悦君



ちびっこたちは元気な土俵を努めました。各部門の、三位までの入賞は次のとおりです。

(団体戦)▽優勝▽舟場(佐藤智文 成田康浩 小塚 巧)▽二位▽鎌沢(照内昭平 佐藤敏也 小笠原晃)▽三位▽学校通(藤田博之 佐藤 博 福原暢允)(個人二年の部)▽優勝▽中島伸行(舟場)▽二位▽佐藤 匠(脇神)▽三位▽沢田直彦(綴子下町)(個人三年の部)▽優勝▽藤島洋悦(太田)▽二位▽津谷盛樹(緑ヶ丘)▽三位▽玉造高明(鎌沢)

鷹中バレー・全国大会二回戦で惜敗

鷹中男子バレーボール部は、去る八月十六日から十八日まで東京都体育館で行われた全国大会に、秋田県代表として出場。一回戦は千葉県代表の市川中と対戦二対〇で勝ちましたが、二回戦は福岡県

代表の南小倉中と対戦、健闘しましたが二対一で惜しくも敗退しました。

八郎潟町と交歓テニス大会

第十一回八郎潟町・鷹巣町交歓テニス大会は、八月十二日午前十時から南鷹巣の町営コートで開かれ、総合で当町が十三対六で勝ち、通算で三勝七敗一引き分けとなりました。

この大会は、両町がテニスの振興と親睦をねらいに毎年会場を輪番制にして開いているものです。当日の試合内容は、中学校男子が三勝、女子三敗、高校男子一勝二敗、女子三勝、一般男子二勝、女子一勝、成年二勝、壮年一勝一敗、総合で十三勝六敗でした。

五城目町と十四種目に交歓スポーツ

五回目を迎えた五城目町との交歓スポーツ大会は、八月五日午前九時から鷹巣体育館で開会式を挙行。各会場にわかれて十四種目に友情と親睦の熱戦を展開しましたが、総合で当町が八対五で勝ち、通算で四勝一敗となりました。

試合内容は、野球が一般、朝起きとも敗れ二敗、テニスは一勝一敗、卓球一勝、剣道引分け、バレー三勝、バスケット一勝二敗、バトミントン二勝、総合で八勝五敗でした。

鷹中野球部準決勝で敗退

八月二日から八日まで秋田市の八橋と県立の二球場で行われた第四十五回全県少年野球大会に、大館北秋二区代表として山場した鷹中野球部は、三度目の全県優勝をねらいましたが、惜しくも準決勝で敗退しました。

鷹中野球部は、二回戦羽後中と対戦、果敢な攻めで五対〇と快勝。三回戦は、生保内中と一点を争う緊迫したゲームを展開、延長十回六対五で勝ち。準決勝は、能代一中と対戦期待されましたが、五回で十対〇のスコアで負けという苦杯をなめました。

スポ少野球大会西小学校が優勝

第三回町スポーツ少年団野球大会は、八月十、十一の両日、鷹巣農林高校球場に鷹巣、東、綴子、西、中央、南の六小学校から、五年生中心の新人戦が行われ、西小学校が初優勝を飾りました。

試合は、各チームともいっぱいの応援団の見守るなかで行われましたが、結果は、一回戦西小対東小は七対〇で西小、南小対中央小は六対三で中央小。準決勝中央小対綴子小は十九対一で中央小、西小対鷹小は十対九で西小。決勝戦は中央小と西小のあいだで行われ八対一で西小が勝ち、初優勝を飾ったものです。



郷土の遺産 青年の祭り

「第一回鷹巣・阿仁郷土芸能と青年の祭り」が八月十四日、児童公園と役場前路上でにぎやかに繰りひろげられ、およそ一千五百人の観衆から盛んな拍手がおくられました。

この祭りは、鷹巣・阿仁郡五カ町村の青年会が、「ふるさとを見つめなおし、守り、更に創造していく」と主催したもので、うちめゆく郷土芸能の再興と伝承、さらには実践の場として、関係者から高く評価されています。

当日は、第一部として午後一時から五時まで、青年芸能祭が児童公園で行われ、太田番衆、合川の

猿倉人形、各単位青年会の舞台踊り、フォークダンス、生バンドなど、真夏の空の下、若者たちはエネルギーを燃焼させていました。

第一部の郷土芸能祭は、午後五時から九時まで、会場を役場前路上に移し、綴子の太太鼓でオーブニング。そのあと大林獅子踊り（上小阿仁村）、五味堀餅つき舞（森吉町）、新屋敷駒踊り（同）今泉駒踊り、前山双踊りと雑魚釣舞いが次々と披露され、最後は綴子下町の勇壮な獅子踊りで幕となりましたが、観衆からは、ふるさと芸能に惜しみない拍手がおくられていました。



▲ ユーモアたっぷり…前山雑魚釣舞



▲ 昔とった杵づかで…五味堀餅つき舞



◀ 三人の若者が獅子に扮して…綴子獅子踊り



▲悪霊をしずめる靈感の神をあらわす大林獅子踊り



▶太田番楽



郷土芸能と 育ん



▶若い女性も入って…前山奴踊り



おしらせ

家出人を捜す
相談所を開設

警察では、家出人の届出やこれ
を捜す相談を受けてから、所在の
発見や行先など調査につとめてお
りますが、いまだ手がかりのない
方も相当数あります。

こうした消息のわからない家出
人の中には思いがけない事故、自
殺などにより、異郷の地で無縁仏
として葬られている方も多数ある
と思います。

このような不幸なことがたを一
日も早く身寄りのかたにお引取り
を願うため、本年も九月一日から
三十日まで、鷹巣警察署では、相
談所を開設して全国各地で死亡し
ていまだ身元のわからない方の写
真を準備して、みなさんのご相談
をお待ちしております。

お心あたりの方は鷹巣警察署に
おいでください。

鷹巣高等職業訓
練校で生徒募集

鷹巣高等職業訓練校では、昭和
五十五年度訓練生を次の要領で募
集しています。

募集科目は、▽高卒コースⅡ電
気設備技術科(二十名)、建設機
械整備技術科(二十名) ▽中卒
コースⅡ建設機械整備科(十名)、
電気工事科(十五名)、建築科

(二十名)となっており、訓練期
間はいずれも一年。

受付期間は、▽高卒コースⅡ昭
和五十五年一月十日〜三十一日
▽中卒コースⅡ同一月二十一日〜
二月五日

選考は、▽高卒コースⅡ二月六
日(水) ▽中卒コースⅡ二月八
日(金)、鷹巣高等職業訓練校で
行います。

訓練期間中の諸経費については
技能育英資金制度などもあります
ので、くわしくは同校へお問い合わせ
ください。

出かせぎ者
技能講習会

大館職業安定所鷹巣出張所では、
九月十二、十三日の二日間、出か
せぎ者技能講習会を鷹巣公民館で
実施します。

講習科目は簡易土木工法、時間
は午前九時三十分から午後四時三
十分まで。

定員は四十名となっていますの
で、受講希望の方は九月八日まで、
職安または出かせぎ相談所(役場
商工観光課)へ申し込みください。
受講料は無料です。

停電のお知らせ

九月五日から二十七日まで、次
の地区が作業のため停電となりま
す。
時間は、午前九時から午後零時

まで。(20日だけは午後一時まで)
▽5日 前山黒沢 ▽20日 摩当
向町 ▽26日 門ヶ沢 ▽27日 東
又全線

溪流、山腹斜面の
危険区域を調査

県では、国からの依頼による土
石流危険溪流および危険区域の現
地調査を実施いたします。

期間は十二月までで、溪床勾配、
溪床堆積物の有無、地形、地質関
係要因、溪床堆積物の質など溪流
の現地踏査および計測を行います。

調査は、土石流危険溪流および
危険区域の設定のために行うもの
であり、他の目的に使用するもの
ではありませんので、立入りがあ
った時にはご協力くださるようお
願いいたします。

(北秋田土木事務所)

身障者更正協会で
研修旅行者を募集

鷹巣町身体障害者更生協会では、
在宅している重度身体障害者の研
修旅行を、九月二十一日(金)田
沢湖へ実施することになりましたの
で、仲間との親睦を深めるため
にもぜひ参加してください。

参加費は、重度身障者は無料、
その他の会員は実費負担。

参加希望者(くわしく知りたい
方も)は、地区役員か町社会福祉
協議会事務局(電話二二一一一
内線二二五)に九月十日までに申
し込みください。



図書館だより

資料調査にご協力
おねがいします

県教育委員会では「秋田県教
育史」編さんのため、資料の所
在を調べています。藩政時代か
ら今日に至るまで、どこに何が
あるか、知っておりましたら公
民館にお知らせください、詳し
く調査に参上します。

(例)

- 一、藩政期から明治中期まで
- ▽児童生徒の作品、卒業証書、
通信簿、教師の日記、写真、
地域の新聞、公報に記された
教育記事、教科書、ノート
- ▽郷学校、私塾の記録、▽学
区取締、伝習生の記録、▽学
務委員、教員の辞令
- 二、明治時代のもの
- ▽夜学会の記録 ▽地域の教
育に関する記録 ▽勸学遵法
に関する記録
- 三、大正から昭和二十年まで
- ▽学童疎開、勤労奉仕関係
▽紀元二千六百年奉祝関係
四、昭和二十年以降
- ▽占領軍時代の記録

昭和五十四年度秋田県芸術祭
公募文芸作品集
「あきたの文芸」作品集募集
(要項)

- 一、主催 秋田県教育委員会
- 二、応募資格 秋田県内に住
者で満二十歳以上とする。
- 三、募集作品(部門)
- (1) 詩 本文四十行以内、
短歌、 詠草 十首
- (2) 俳句 雑詠 十句
- (3) 俳句 雑詠 十句
- (4) 小説(児童文芸、戯曲を含む)
四百字詰原稿用紙三十枚前
後を基準
- (5) 評論(文芸研究を含む) 右同
- (6) 各部門とも作品題は自由であ
るが必ず題名をつけること
- 四、応募上の注意
- (1) 応募作品は、すべて四百字詰
原稿用紙(B4版、西洋紙大)
に楷書で記入すること。
- (2) 応募原稿の一枚目に次の事
項を記入すること。
- 応募部門、作品題名、作者名
ペンネームの場合には本名を()
書き添えること、住所、性別、年
齢、職業、連絡電話番号、所属
同人誌名、作家歴
- (3) 応募作品は未発表のものに限
る
- 五、原稿締切 十月末日
- 六、発表 十二月上旬、県内新
聞に発表
- 七、送り先、秋田市山王秋田
県教育庁文化課「あきたの文
芸」係

カメラ・ルポ

カメラ・ルポ

カメラ・ルポ



『大にぎわいの歩行者天国』

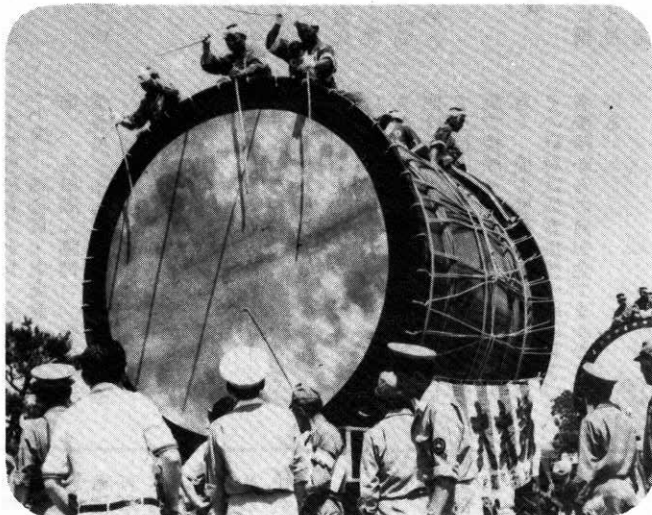
ラクガキなど楽しむ

好天にめぐまれた八月十七日午前十一時から午後七時まで、米代町で第四回目の歩行者天国が行われ、お盆の一日を楽しみました。

午前十一時、出川町長、佐藤観光協会長のテープカットで始まった歩行者天国は、子どもや家族づれ、若者たちで車道はあっといふまに満杯。チョークでラクガキする人や金魚すくい、すいか割り、のどじまん、あめくい競争、ビール早のみなど、おもいおもいに歩行者天国を楽しんでいました。

『綴子の日本一の大太鼓』

一回りでっかく登場



「日本一の大太鼓」を誇る綴子で、またも一回り大きく作り、八月九日鷹巣体育館で行われた全県消防大会のアトラクションで初披露されました。

この大太鼓は、上町が数カ月前から町の桶樽製造組合などに依頼して製作していたもので直径三・四五メートルの長さ四倍、重さ三トンを超す文字通り「日本一の大太鼓」。

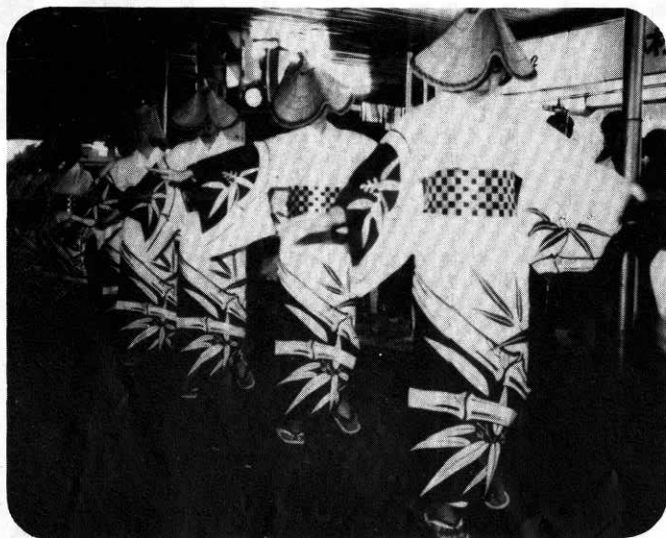
当日は、下町の大太鼓（三・一八メートル）とともに出演、全県から集まった消防関係者を前に打ち鳴らされましたが、雷鳴のような豪快さに、参観者は一様にびっくり、盛んな拍手を送っていました。

『踊りの輪も大きく盆踊り』

団体や若者が参加

ことしで二十三回目を迎えた「盆踊り大会」は、八月十五日から三日間、米代町で盛大に行われました。

盆踊りは、午後七時から子ども部、八時から十時までおとな部とそれぞれ行われましたが、ことし創立五十周年を迎えた北秋中央病院が、岸部院長を先頭に連日およそ八十人が仮装などをして踊ったのを始め、会社や商店の団体、それに若者など着飾った人がおおい参加、楽しく踊りの輪を広げていました。



部落自治公民館

活動のすすめ

『沢口地区連絡協議会』

の例を紹介する。

公民館運営会議

古里は時代と共に変わりつつある。職種が多様化し、職場も異なるとつとめなければ人々は孤立化してしまうのではないかと心配される。「明るく住みよい近隣社会をつくること」そのための地域住民の主体活動を助けるために、公民館では今年度も、部落自治公民館活動を重点としてきた。

公民館分館では、それぞれくふうしながら地域のこの活動を進めている。その一つとして沢口分館

今年度は、

- 1、公民館と学校教育との連携
 - 2、部落自治公民館の推進
 - 3、生活合理化運動の推進
 - 4、スポーツ施設整備の推進
 - 5、青少年の不良化防止運動
- の五項目を重点とし、それぞれの部落自治会や、団体での活動方法について話し合っ計画をたてた。婦人学級、若妻学級、子供会などの活動が、部落の人々によく理解され、励まされながら着実に効果を挙げているのは、そのためであらう。

部落自治会長 連絡協議会の結成

沢口地区の十六部落は、更に横の連けいを深めるため、昨年八月「部落自治会長連絡協議会」を発

足させた。会則第二条に、本会は部落自治の発展と沢口地域共同体コミュニティの為に、教育、文化、産業の振興につとめることを目的とし、かつまた会員相互の親睦をはかる。とあり、事務局を沢口分館におき年三回の定例会の外に必要な応じて開会することになっている。

去る八月十日の定例会では役員改選のあと、今年度の重点としてつぎの三項をすすめることを確認した。

- 1、村づくり研修会を開催する。
 - 2、部落自治公民館活動の推進
 - 3、公民館事業への協力
- 具体的には先進地の見学、町長と語る会など諸々計画している。本年度役員は、会長・畠山米五郎（小森）、副会長・中健一郎（舟場）、花田満（脇神）、監事・千葉義男（中屋敷） 畠山慎之進（藤株）

親睦交流の場としての スポーツ行事

今は、どの地区でもスポーツ活動が盛んである。沢口地区でも公民館活動におけるコミュニティづくりの柱として体育行事を重視し、野球、すもう、駅伝、バレー、バスケット、スキーと、大体毎月一回は大会が開催されている。そして三百人は参加しておりお互いが肌で接触しているこの親しみは大きく、協力態勢の源となっている。その経費は体育振興の助成金と、各部落からの負担金でまかなっている。

部落訪問



まへのちょう ＝前野町＝

国道七号線を東に走ると、大堤部落につづいて見える集落が前野町である。ここはもと原野であったが、昭和四十九年から五十一年にかけて町で宅地に造成し分譲したものである。

近くの水田も併せて、全面積約七・六haに道路を通し、一区画百坪のものを百七十区画造り分譲した。

大堤部落の村はずれに、「前野団地入口」との標札があり二百米程進むと、やや扇型に広がる街路に新しい家が整然と並んでいる。しかし、奥の方にはところどころにまだ空地があり夏草が茂っていたし、建築工事中の家もあちこちに見られた。

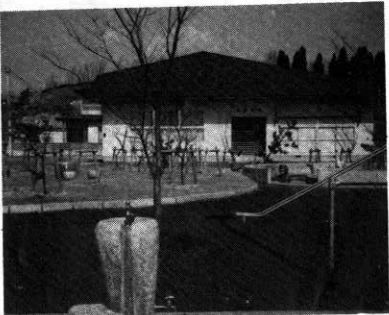
この協力員、畠山末四郎さんを訪ね、いろいろ聞いた。現在、建築を完了したものが百二十戸、中入居しているものが百三戸で、明年の八月には全部が建て終わらなければならないことになっているという。昭和五十一年の夏、集中豪雨の鉄砲水で家屋敷が流され、ここに移ってきた明利又部落の十五世帯と、綴子地内の次三男、約三十

世帯が、まとまったところで、あとは方々からの集まりで、職種もさまざまだが、職場も能代方面、大館方面と方々に散らばっている。

街の中央部には緑地帯遊園地と集会所「前野会館」がある。大会議室・和室・調理場を備えたこの建物は、グループの集會や個人の法事などで絶えまなく利用されている。畠山さんは、「なるべく多く人々の集まる機会をつくり、お互いが仲よくなることに努めています。みんなものわかりがよく、行事には協力してくれます。」と語っていた。

団地の運動会、子供会の一泊たのしみ会（会館で）若妻学級の幼児教育を中心とした学習会等々、計画的で、この団地の人々は、はちきれそうな若さで新しい街づくりにはげんでいる。

（公民館長 長崎 久）



前野会館と児童遊園地

部落対抗野球大会



みんなの広場



またたび
マツタブ。葉が半分くらい白くなる。実を果実酒に用いる。ネコの好物。
(南小・阿部達雄先生)

絵を描いて

見ませんか……

小森 神成 正雄 (43)



情報化時代といわれる現代社会においては、テレビ、

新聞、雑誌等情報が混乱し、人々はいろいろな情報を見たり聞いたりしているのが精一杯で、つい自分を見失いかねません。そのためにも自分の考え方、生き方をじっくりみつめる必要があるのではないのでしょうか。



ぼくのおとうさん

ぼくのおとうさんの仕事は、木工業です。ごはんを食べると、すぐ仕事をします。

ぼくは、くぎをうつときに、ゆびをまちがえてたいたりするのに、おとうさんは「ドン、ドン」と、力強くうつてもゆびをまちがえて、たたくときはありません。

広報のしおり

気象

こよみのうえでは立秋をすぎても、残暑はきびしく、秋という実感はまだありません。北日本や高原・山岳地帯をのぞいては夏の様相が強く、

るためには、まず、強烈な個性があつて、次元の高い思想性があり新鮮さがなければなりません。以上の理想を求めて古今東西の一流作家達は思索し、苦悩し、努力して名作を創り出したのです。しかし、趣味としての絵はもっと気軽に、自分の描きたいものを好きなように描くことでよいのではないのでしょうか。同じ花を見て描いても描く人によつてみな個性をもっているのです。子供の絵はそれなりに立派に絵として見られます。絵を描くことによつて人間性豊かな感性をやしなひ、生きがいのある人生をおくりたいものです。



鷹巣小三年 河田 毅

いそがしいときは、ぼくたちがねた後で帰つてくるときもあります。ときどきキャッチボールするときは、とても楽しいです。そんなおとうさんが大すきです。

わがサークル

＝渡辺社中 綴子婦人学級＝

ネムの花が終り、生垣のムクゲが今を盛り群れています。秋の七草・萩がこぼれ咲いているのが目をひきます。

綴子婦人学級は三年目になりましたが、月に一回のお稽古では思うようにいかず、上達したとまではまいりませんが、どうやら花木の出生を理解できるようになりました。月に一回でも、花に接することを楽しみが見られます。仲間が増えて、熱心にお稽古されておられる姿は、ひとしおであります。学級生は、決して暇な方たちではありません。中堅どころの多忙な主婦ですが、向学心に燃えておられるのが生涯の糧となるこ

と、夏の景物であつた雷もめつきり鳴らなくなるのをいったものです。大陸から乾いた空気が流れこむと、日ざしが弱まること、気温の低くなることなどが原因です。春分からはちょうど半年めの秋分から次第に昼よりも夜の時間のほうが長くなります。

とでしよう。

花木との出合いは、人間の心をやわらがせてくれます。花を見て腹をたてる人はありません。いけばなは、いける人の心を直接表現してくれまう。愛情を持って語りかけると、それにこたえてくれます。婦人の皆さんの生きがいに通じれば、幸いです。

初秋、ぼつぼついけ花の素材が自然美を表わしており、秋は一番素敵な季節であります。

(紹介者 渡辺 ミツ)



おしらせ



「繪美術会会員 九島家二氏

九月の健康相談

九月の健康相談は、次のとおりです。

成人健康相談は、十二日と二十日です。

時間は、午前九時から午後三時まで。血圧測定のほか、必要に応じて尿検査も行います。

フッ素イオンむし歯予防は、十二日です。

時間は、午後一時から午後三時まで。対象者は満三歳以上の幼児で、おいでの時は母子手帳を忘れないでお持ちください。

妊婦健康相談は、三日と十七日です。

時間は、午前九時から午後三時まで。おいでの時は母子手帳を忘れないでお持ちください。

また、今月の母親学級は、沐浴指導と分娩後の注意について。

時間は、午前十時から十一時まで。

※場所は、いずれも鷹巣公民館保健相談室です。

乳児健康相談

乳児健康相談は、二十日と二十四年五月生まれとなっています。受付時間は、午後零時半から一時まで。

離乳食実習指導

離乳食実習指導は、二十日と十四年二月生まれとなっています。受付時間は、午前九時半から一時まで。乳児健康相談も併せて行いますので、お子さんもお連れください。

三歳児健康診査

三歳児健康診査は、六日と五十四年七月、八月生まれとなっています。

受付時間は、午後零時半から一時半まで、おいでの時は母子手帳を忘れないでお持ちください。

※場所は、いずれも鷹巣保健所です。

妊婦訪問

未熟児や異常児の出産を防ぐため、保健婦（助産婦）による妊婦訪問を行います。

九月は、▽四日▽沢口地区▽十一日▽栄地区▽二十五日▽綴子地区となっています。

訪問時間は、午前九時から午後四時まで。

胃の集団検診

ガン予防対策の一環として実施している胃の集団検診は、九月四日から十九日まで次の地域になっております。

検診時間は、いずれも午前六時から七時まで。検診前日の夕食後は、お茶、おやつ等を取らないでください。

検診料は、一人六百元（生保世帯無料）です。

9月4日 前山、黒沢（前山会館）

5日 東旭町、西旭町

6日 舟見町、新舟見町、幸町

7日 東横町、西横町、仲町

8日 大町、学校通、元新町

11日 旭町、末広町、新松葉町

12日 西仲通、三吉町、桜木町

13日 太平町、駅前、材木町

14日 東住吉町、西住吉町、北新町

18日 栄町、東仲通、松葉町

19日 花園町、米代町、福住町

※5日以降の会場は、鷹巣公民館です。

省エネルギー

私の提案を募集

経済企画庁では、暮らしの中のエネルギーの上手な使い方、節約の具体的実例などについて、あなたの提案を募集しています。

▽原稿 横書で四百字詰原稿用紙五枚程度。氏名、住所、電話番号。

号、職業、年齢を明記してください。

▽提出期限 十月一日

▽提出先 秋田市山王四丁目一

一 秋田県庁消費生活課

なお、特賞、優秀賞に入賞された方には、来年二月に東京で開かれる省エネルギー全国集會に招待し、表彰します。

くわしくは、役場商工観光課へお問い合わせください。

香典返し

このほど次のかたから、香典返しにと町社会福祉協議会へ寄付金がありました。

▽新旭町 三浦俊英さんから亡父弥助さんの香典返し

三〇、〇〇〇円

▽住吉町 齊藤良治さんから亡父良助さんの香典返し

三〇、〇〇〇円

▽桜木町 三沢征悦さんから亡父義雄さんの香典返し

一〇〇、〇〇〇円

▽福住町 小西明さんから亡父実則さんの香典返し

三〇、〇〇〇円

▽東旭町 増田ヨスエさんから亡夫清太郎さんの香典返し

五〇、〇〇〇円

慶弔だより

8月1日～8月15日

誕生おめでとうございます

奈良田貴之（栄二 二男）材木町

島山奈穂里（一博 二女）与助岱山城 圭吾（克則 二男）南鷹巣山城 陽子（保博 五女）西旭町豊川 祥子（敏昭 長女）高村岱齊藤 明子（一志 長女）下町島山 里美（富雄 二女）前野佐藤 美咲（徳昭 長女）新田中佐藤 祐（正幸 二男）伊勢町島山 陽子（周吉 長女）大畑矢田部千夏（晃 長女）伊勢町佐藤 彰子（正孝 三女）新松葉町岩本 容子（俊悦 長女）西住吉町小笠原 洋（俊郎 二男）前山佐藤 真（裕 長男）舟見町齊藤 敏彰（宇三郎 二男）北新町長岐 隆行（直衛 二男）七日市藤本 学（忠 長男）旭町

二人の前途を祝福いたします

（猪股 正順 栄町）（武田 真里子 今泉町）（内山 秋夫 向黒沢）（神成 京子 小森）

おくやみ申しあげます

小西 実則（82歳）福住町
三沢 義雄（68歳）桜木町
河田 孝一（77歳）三吉町
佐藤 サワ（66歳）街道町
高橋 ヒテ（75歳）摩当
寺田 ヤエ（82歳）西仲通
佐藤 カツエ（79歳）羽立
高橋 吉五郎（71歳）綴子上町
長岐 タカ（68歳）七日市
桜庭 栄蔵（67歳）蟹沢